

乗雲

寺報
第124号
R6/2/1 発行

1985/4 創刊

〒959-2646 新潟県
胎内市西栄町 2-8
TEL 0254-43-2419
FAX 0254-43-4560
編集人 広厳寺
住職 神田英俊

メール
otera@kogonji.jp

臨済宗僧侶の松原泰道老師は結婚式の挨拶で宗教詩人坂村真民さんの詩を引用してよくお話をされておりました。

子を抱いていると 行く末のことが案じられる 良い人にめぐりあつてくれと おのずから涙がにじんできると

『お二人ともご成長されて、今



平成八年 三人得度式

お似合いのご夫婦となりました。ところで、ここで目をつぶってこんなことを考えて下さい。テレビやラジオのボリュウムをおとすように、ご自分の年齢を逆に戻していき、零歳にしてみてください。その時、いま一番末席にいらっしゃるあなたの方のお父様、お母様が、オムツにくるまれたお二人を抱いて、念じられた気持ちが今の詩だと思えます。「良い人にめぐりあつてくれ、良い人にめぐりあつてくれ」と願われた親御さんの祈りが実って、今日この素晴らしい式を上げることができました。いつもいつも、「良い人にめぐりあつてくれ」と念じられた、その親の願いが実って今日があるんだということも忘れてないでください。明けても暮れても自分の幸せを念じていてくれる、親の祈りを背中に感じて下さい。』 松原老師書籍より

松原泰道老師は、この「めぐりあい」という坂村真民さんの詩の一節は、親の子に対する愛情や生まれてから成長過程での心配や困難、よき人に巡り逢ってほしい、幸せに育ってほしいという真民さんの切実な願いが込められている一文であると解釈されています。

私たちは長い人生の中でたくさんのご縁をいただいて今生きています。三人の弟子も平成八年揃って仏門に入り、宗門の高校、大学に学び、その後永平寺や四国の随應寺僧堂での修行を終え、長男は副住職、二男は村上市千眼寺住職、三男は関川村雲泉寺住職となつてそれぞれが活躍しています。いろんな人と巡り逢い、数々のご縁の力によって現在に至っています。

このたび、三男神田恭真は深い縁(えにし)と不思議な出会いにより、今春雲泉寺本堂に於いてご本尊釈迦牟尼仏ご真前にて挙式いたします。お相手は同じ関川村の田村與一家二女・田村舞子さんです。これから二人、「めぐりあい」の思いを大切に、心豊かに生きて欲しいと願つてやみません。

令和六年 年回忌表

「回忌」	「没年」
一周忌	令和五年
三回忌	令和四年
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十四年
十七回忌	平成二十年
二十三回忌	平成十四年
二十七回忌	平成十年
三十三回忌	平成四年
五十回忌	昭和五十年
百回忌	大正十四年

▼令和六年度(2024)の年回忌表です。

当寺では個人情報保護の観点から本堂には張り出ししていません。年忌に当たられている各家には昨年十一月に通知していますのでご確認ください。

▼日曜・祝日のご法事の申し込みはお早めにお願いたします。▼「周」は「めぐる」ことを意味する言葉で、亡くなつてからちょうど一めぐりした翌年のその日を一周忌と呼ぶ。回忌とは亡くなられた日を最初の忌日と考え、三回目の忌日が「三回忌」となる。以降は丸六年目が七回忌、丸十二年目が十三回忌となる。

大般若会ご案内

期日 6月10日(月)
 時間 午前10時より
 内容 祈禱大般若、檀信徒先祖供養
 法話
 *法要終了後、粗餐の用意があります。
 参列の方はお持ち帰りいただき、各家
 でお召し上がりください。
 *詳細は後日配布します。

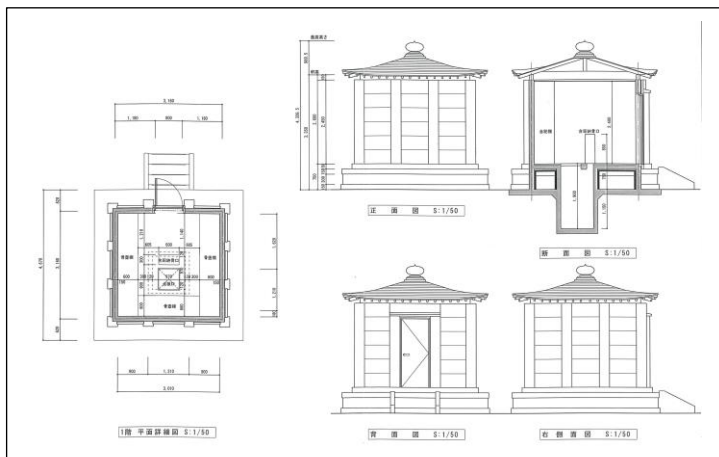
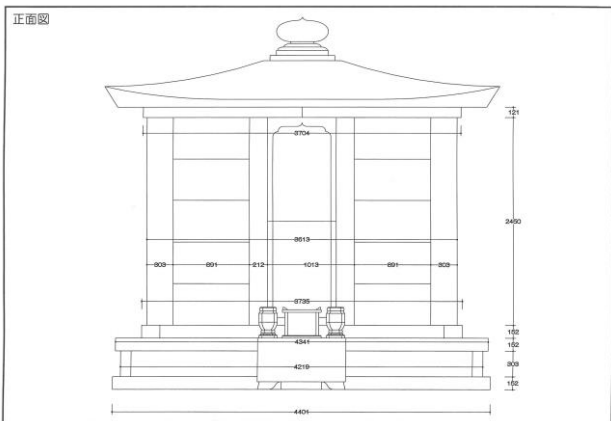
新年役員会開催

一月二十一日(日)午前十一時より本堂に於いて新年役員会を開催しました。定刻、住職挨拶、総代長・榎本善一氏挨拶の後、住職より、令和五年度の行事報告、令和五年度護持費納入状況、檀信徒の動静、永代墓の利用状況、令和六年度の行事予定等の説明後、異議なしにて解散となりました。尚、このたび、大川町・中原敏雄氏、小舟戸・高橋茂男氏、飯角・佐久間重行氏が退任されました。

涅槃聖苑(個人集合墓)

現在計画中的のお墓は、「個人集合型合葬墓」と言い、①永代供養を希望の方、②檀家であるが将来が不安でお墓建立を躊躇っている方③新規檀家登録される方でも個人のお墓を持たなくても自分の家のお墓として使用できます。その後永代供養に変更も可能です。

近年は、一、経済的にお墓を維持するのが難しい、二、子どもが地元を離れているのでお墓を建てても継承ができない、三、単身で身寄りがなく後継者がいない等の悩みや



不安を抱えている人が多くなっています。この合葬(集合)墓は骨つぼで安置します。なお、永代供養として個々に納骨を希望の方は三十回忌(弔い納め)までは安置し、その後合祀供養になります。また、最初から合祀を希望される方もこのお墓に入ることが出来ます。将来後継がいなくなり墓終いを考えている方も合葬できます。令和六年度建立予定です。詳細はお寺へお尋ねください。

令和六年能登半島地震

一月一日午後四時十分頃、石川県能登地方を最大震度7の激しい揺れが襲いました。輪島市の観光名所・朝市通り周辺では地震発生後に火災が起き、住宅など約二百棟が全焼しました。石川県全体で多数の犠牲者が出ています。新潟県にも被害が及びました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われた皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。

能登には七十ヶ寺ほどの曹洞宗寺院がありますがみな被害を受けています。特に輪島門前町の大本山總持寺祖院は平成十九年二月二十五日に発生した震度6強の「能登半島地震」でも甚大な被害を受け、全国の曹洞宗寺院及び檀信徒のご寄付ご協力により、十四年の長期に亘る耐震保存復興修理工事を経て完成したばかりでした。本年は總持寺開山瑩山紹瑾禅師の七百回大遠忌の年です。復興なった祖院では遠忌に向け、特別な法要行事が生まれ、全国からの団参も多数訪れる予定でありました。再度の復興を祈るばかりです。



このたび当寺では右記の旅行を計画いたしました。仙台の名刹・輪王寺の本寺は村上市門前耕雲寺であり、耕雲寺六世の太菴梵守大和尚が開山となつています。当寺（耕雲寺十六世海應寿山大和尚が開山）と同末です。嘉吉元年（一四四一）の創建で、整備された庭園には心が洗われます。詳細は同封パンフレットをご覧ください。

研修旅行（一）
輪王寺参拝と
松島・秋保温泉の旅

期日 五月二三日～二四日
旅費 四万三千元



研修旅行（二）

大本山總持寺
太祖瑩山紹瑾禪師
七百回大遠忌参拝の旅

- ・期日 11月6日～8日
- ・定員 40名
- ・旅費 69,000円
- ・×切 令和6年9月末日



大本山總持寺大祖堂



神奈川県鶴見・大本山總持寺では、令和六年四月より太祖瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌を迎えます。高祖道元禪師が相承された正伝の仏法は御開山瑩山禪師に綿密に受け継がれ今日に至ります。このたび第十七教区護持会では、右記の旅を計画いたしました。大遠忌は五十年に一度、難値難遇の大法要です。一日目は群馬県沼田・迦葉山に参拝し、大本山總持寺泊、二日目

大本山總持寺旅行行程表

11/6 (水)	各地 IC	7:00 (北陸・関越)	沼田 IC	迦葉山 (御祈禱)	沼田 IC	夕入 16:00 (関越・首都高)	大本山總持寺
11/7 (木)	大本山總持寺 IC	8:30 (首都高・常磐・圏央)	牛久阿見 IC	地上1200m 牛久大仏 (世界一の大仏様)	袋田の滝 日本三名瀑	16:45	母畑温泉 八幡屋
11/8 (金)	各地 IC	9:00	津内宿 (弘安寺) 中田観音 (恵隆寺) 立木観音 (鳥追観音)	西会津 IC	(磐越)	17:45	各条地

は牛久大仏、袋田の滝を観光し、母畑温泉「八幡屋」泊、会津ころり三観音他をお参りし帰路につきます。この機会にぜひご参加ください。詳細はお寺まで。

仏事の知識

松明（たいまつ）

曹洞宗の葬儀式では導師（乗炬師）による「松明」の作法がある。引導を渡す際に松明を侍者から受け取り、亡者の棺、または位牌、遺影の前で空中で三回ほど円相を描くもの。この松明を回す作法（宗派により後に龕前に投げることもある）には、一、悪霊を祓う、二、煩惱を焼く、三、未練を断つとの意味が込められている。実際には式場では火を点けられないので松明を模した先を赤くした棒を用いている。その昔、中国の唐代の禅僧であった黄檗希運禪師が母親の溺死に遭い、松明に火を点け円相を描き、その松明を川に投げ込んで冥福を祈ったという故事に由来する。その後、亡者を讃えて供養する引導法語を唱える。

当寺ホームページ「仏事の知識」ページでもご覧いただけます。



瑩山紹瑾禪師七百回大遠忌

ひたすらに かける願いは
あらたかや 玉の台に 紫の雲
南無常済大師 南無常済大師
太祖常済大師御詠歌

曹洞宗は、仏教の開祖「釈迦牟尼仏」をご本尊と定め、お釈迦さまのみ教え（おさとの心）を正しくお伝えになられた道元禪師（高祖常陽大師）、親しくおひろめになられた瑩山禪師（太祖常済大師）を両祖として、お釈迦さま、高祖さま、太祖さまを「一仏両祖（曹洞宗三尊仏）」とお呼びし、人生の導師として礼拝するとともに敬慕申し上げます。

曹洞宗宝暦より抜粋

本年は大本山總持寺開山瑩山紹瑾禪師の七百回忌正当を迎えます。瑩山禪師は身分差別の激しい時代、生きとし生けるものすべての救済と成仏を願っておられました。禪師の靈驗あらたかなることは總持寺の大伽藍が象徴しています。この荘厳な大伽藍・玉の台を

拝すと紫の雲がたなびき、瑩山禪師の人々をあまねく救おうとの尊くもまた深い願心が有り難く感ぜられます。

大本山總持寺は、石川県にあった諸嶽寺を、瑩山禪師が一三二二（元享元）年、諸嶽山總持寺と改められたのに始まりましたが、一八九八（明治三十一）年の伽藍焼失を機会に横浜市に移転、現在に至っています。交通の便がよく、海の玄関と言われる横浜・鶴見の地に位置するところから、国際的な禅の根本道場としての偉容を誇っています。まさに瑩山禪師の教えに導かれ、開かれた道場として幅広い活動が行われています。

曹洞宗宝暦より抜粋



お寺からのお願い

- ▼位牌堂の各家位牌壇のロウソク、お線香について、ロウソクはお寺で用意したミニロウソクをご使用ください。尚、点灯し、お参りが済みましたら火災予防の為、必ず火を消してください。点したお線香は香炉から灰がこぼれないように真っ直ぐに立てるようにお願いします。
- ▼お墓の自然ゴミ（枯れ枝、枯れ草、枯れたお供えのお花等）は、お寺で業者に依頼して処分しますが、それ以外のお花を包んであった紙、お墓掃除のたわし、雑巾、洗剤容器、ビニール袋類は捨てないでください。各自で持ち帰って町内ゴミの日に出してください。
- ▼古い塔婆は、参道中程に「古塔婆入れ」がありますのでご利用ください。集落墓地の古い塔婆もお持ちください。
- ▼古札は、お寺へお持ちください。
- ▼当寺では合同年回忌供養は行っておりません。ご法事は各家で日時を決めてお申し込みください。少人数でも構いません。懇ろにご供養申し上げます。

寂光塔（永代供養墓地）

一人暮らしの方、お墓継承にお悩みの方、お寺が永代にわたり供養いたします。広蔵寺ホームページにも詳細が掲載されています。



寂光塔（永代供養合同墓所）

動物供養塔（ペット墓地）

動物のお骨を埋葬いたします。檀家さん以外でも納骨供養できます。



動物供養塔（ペットのお墓）

